

中原村の歴史



改訂版

2014/12

著作

池田 順行

目 次

歴史の流れ	3
地形の変遷	8
中原村	10
村治の沿革	12
交通	14
川の恵みと治水	18
生活	23
旧跡	24
神社・仏閣	27
教育・福祉	31
人物	32

歴史の流れ

原始時代

縄文時代	前約1万年	貝塚始まる。
	前6000年	後氷河期(後氷期)の海面上昇最高。
	前2000年	県内各地に、貝塚がみられる。
弥生時代	(期限前3世紀頃から紀元後3世紀の約550年間) 農耕と金属器の使用をその特徴とする文化。 農業生活を営む都合上、集団化が進められ、各地に集落が作られていった。 岡山市上伊福一帯の遺跡などは、農耕と狩猟・漁労を兼ねた生活様式を伝えている。 また農耕とともに弥生時代の特色とされている金属器の使用については、岡山市郡から出土した銅剣・岡山市兼基の銅鐸等当時の状況を示している。	

古代

古墳時代	(3世紀後半から7世紀) 当時すでに、すぐれた吉備文化が花開き各地に幾多の豪族たちが君臨して、独特の地方国家を形造っていた。 その権力の象徴として巨大な古墳が造られた。 — 備前車塚古墳・神宮寺山古墳など — 6世紀末から7世紀初めの築造と推定される首長墓、唐人塚古墳。 6世紀中期から後期にかけて吉備地方全域にわたって群集墳が爆発的に出現した。 — 操山南向き斜面・龍ノ口南向き斜面 —
飛鳥時代	(6世紀後半から7世紀後半) 仏教文化の普及により、寺院建設が権力のシンボルとなっていく。 — 賞田廃寺 —
白鳳時代	(7世紀後半から710平城京遷都まで) 吉備の豪族競って氏寺を建立。 — 幡多廃寺 —
奈良時代	(710年平城京以降 794年平安京遷都まで) 仏教国家の出現、国司のもと、国分寺・国分尼寺の建立。

金山寺・湯迫寺・脇田寺など、天平勝宝年間に、備前48ヶ寺として創建され、神社では龍ノ口八幡宮が天平勝宝年間の創建とされている。

平安時代

(前期)

荘園の発達。

班田制が崩れゆく過程の一方で、荘園を拡大していった人々が現れ、彼らのうちでもっとも権力的に行ったのが、摂政・関白として政権を独占した藤原氏であった。

吉備地方では、備前の鹿田荘が、摂関家の荘園として有名である。

また、三野荘が東寺の荘園であった。

中世

平安時代後期から鎌倉時代

10世紀頃に起こった地方武士団の中で、その勢力の最も強かったのは、平氏と源氏である。

源氏の勢力が、主に関東を中心に広がっていたのに対し、平氏興隆の基盤となったのは、関西で、ことに平正盛・忠盛・清盛ら3代わたって備前守・美作守に任ぜられて、後、吉備地方や瀬戸内海に対する平氏の支配権は確定的なものとなった。

したがって、備前や備中には難波次郎経遠・瀬尾兼康など、平氏に縁の人々で構成に名を残している人も多く、また、平氏滅亡に際して土着した人も多い。

鎌倉時代から室町時代

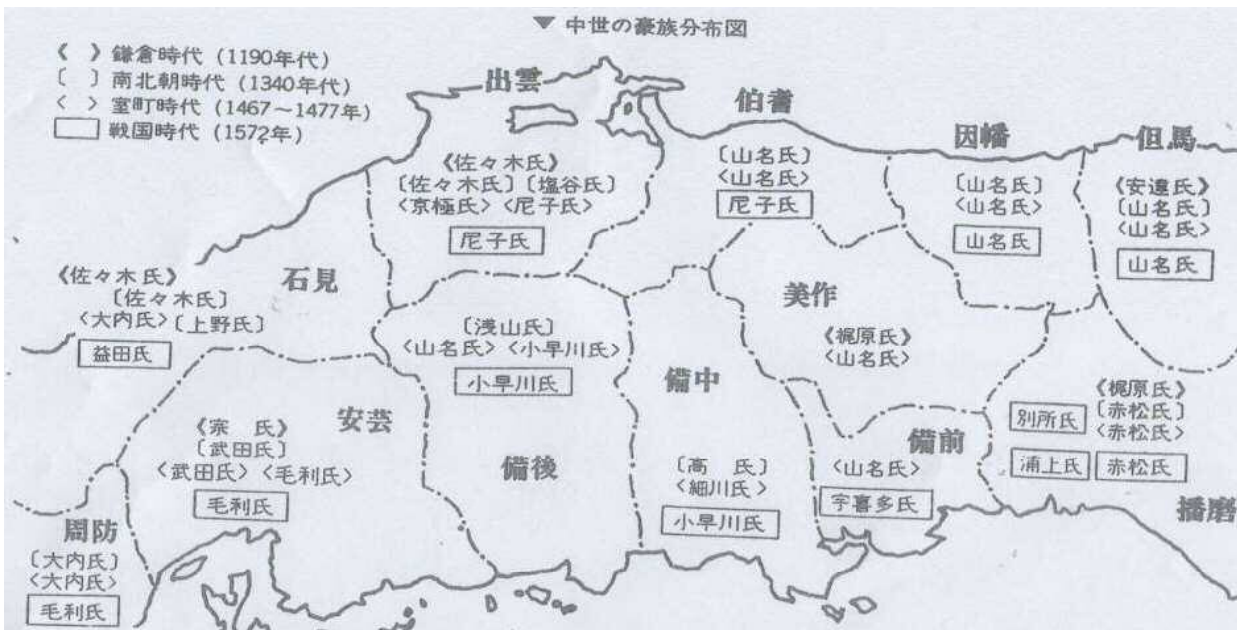
この時代最も備前で繁栄したのは、福岡荘で、吉井川に沿う地の利を占めて、舟運による諸物資の集散地となっていた。

くわえて、鎌倉時代の末期には、それまで三石から和気・牟佐・磯尾谷・津高などを経て備中に入っていた山陽道が、片上・香登を通過して福岡に至り、ここから藤井・釣りの渡し・津高を通過して備中に抜けるように変わり、福岡が、経済上の中心地となり、また、備前の領主赤松氏に代わって山名氏が当地を治めた1441年から1483年の約40年間は、中国地方屈指の軍事基地となった。

戦国時代の岡山県地方は、備前・備中などの豊かな穀倉地帯をめぐって、文字通り群雄たちが割拠したところで、北からは美作まで尼子の勢力が、西から備中まで毛利の勢力が、東からは備前まで赤松の勢力が伸びていて、互いに、せめぎ合い、しのぎを削り合っていた。

これら戦国大名を岡山地方から駆逐して統一政権を打ち立てたのが宇喜多直家である。

宇喜多直家は、天正元年本拠を沼城から岡山城に移し巨大な岡山城の構築を始めるとともに、商人や職人もその周囲に集め、本格的な城下町の建設の礎をこの強力な戦国大名によって築かれたということが出来る。



近世

(備前藩主小早川・池田)

慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いを境に、政治の中心は江戸に移り、近世封建社会が確立された。

天正元年(1573年)宇喜多直家に始まる岡山城下町の建設は、小早川氏の跡を受けた池田氏によって一段とすすめられた。

寛永9年(1632年) 岡山藩主として岡山城に入った池田光政は、

① 家臣の知行地の直し高を断行するとともに知行地の裁判権・夫役徴収権すべてを
取り上げ藩主の命令が直接農民に達するよう改革した。

② 家臣団を家老・中老・番頭・物頭・寄合以下12の階層に大別しそれぞれ役職につ
けた。

③ 農村の政治に力を入れ郡奉行1名・代官2～3名を置き、大庄屋・庄屋・年寄・組頭
の制度を設け、農民に対する藩主の指導性を確立し、これを徹底させた。

④ 町方支配では、町奉行の下に、大年寄(後に総年寄)・目代(後に名主)・年寄・5人
組頭をおいた。

一方では、藩学校・閑谷学校など民衆の教育、新田開発と新たな農業経営、質実剛健
の気風と仁政思想が光政以来歴代の藩主に受け継がれていった。

岡山城歴代城主在城経歴

初代	宇喜多直家	天正元年～天正10年	1573～1582	10年間
2代	秀家	天正10年～慶長5年	1582～1600	19年間
3代	小早川秀秋	慶長5年～慶長7年	1600～1602	2年間
4代	池田 忠継	慶長8年～元和元年	1603～1615	13年間
5代	忠雄	元和元年～寛永9年	1615～1632	17年間
6代	池田 光政	寛永9年～寛文12年	1632～1672	40年間
7代	綱政	寛文12年～正徳4年	1672～1714	42年間
8代	継政	正徳4年～宝暦2年	1714～1752	38年間
9代	宗政	宝暦2年～明和元年	1752～1764	12年間
10代	治政	明和元年～寛政6年	1764～1794	30年間
11代	斉政	寛政6年～天保4年	1794～1833	39年間
12代	斉敏	天保4年～天保13年	1833～1842	9年間
13代	慶政	天保13年～文久3年	1842～1863	21年間
14代	茂政	文久3年～明治元年	1863～1868	5年間
15代	章政	明治元年～明治2年	1868～1869	1年間

近代

岡山県の誕生

- 明治2年 池田章政 藩籍奉還。
- 明治4年3月 廃藩置県 岡山地方25県に及ぶ。
- 明治4年11月 25県を廃止、備前の岡山県・備中に深津県(後小田県に改名)・美作に北条県が置かれた。
- 明治8年12月 岡山県と小田県が合併岡山県となる。
- 明治9年4月 岡山県と北条県が合併。岡山県となり現在の行政区画が出来た。

市町村制の交付へ

- 明治3年 大庄屋を大里正、庄屋を里正に改名。
- 明治5年 郡内を、大区と小区に分け、大区に区長・副区長、小区に戸長・副戸長を置いた。
- 明治10年 郡役所及び戸長役場を置く。
- 明治16年 郡内を部に分け第何部戸長役場とした。
- 明治22年 市町村制が公布され、
玉柏村・畑鮎村・金山村・中原村・原村 の5ヶ村が合併牧石村となる。
- 明治23年 府県制・郡制が公布され、
岡山県御野郡牧石村中原となる。
- 明治33年 御野郡と津高郡が合併、御津郡となり、
岡山県御津郡牧石村中原となる。
- 昭和27年 岡山市に編入
岡山県岡山市中原となった。
- 平成21年4月 区政が布かれ
岡山県岡山市北区中原となった。